

## 薬学教育協議会フォーラム2011全国学生合同フォーラムについて

浅野尚光

愛知学院大学 薬学部 医療薬学科 臨床薬剤学講座

平成23年2月12日に慶應義塾大学芝共立キャンパスで初年度実務実習の成果と課題をテーマとして開催された文部科学省委託事業薬学教育協議会フォーラム2011全国学生合同ワークショップに参加した。ワークショップには66大学から実務実習を終えた学生90名が参加し、それぞれ9人ずつのグループに分かれて2時間弱ほどディスカッションを行った。

ディスカッションでは「病院実習を通して印象に残っていること」について、KJ法に従って意見の抽出・整理を行った。図式化が完成した後、「これから6年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」、「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」についてディスカッションを行い、グループとしての意見をまとめた。ディスカッション終了後、グループごとにフォーラム全参加者（教員、学生、指導薬剤師等）を対象とした発表会を行い、意見や感想を交わした。

発表会では建設的な意見が数多く出され、時間が少な

く深く議論できないものもあったものの、実習や学習の環境が全く異なる学生との意見のやりとりと、実習や薬剤師に関する感情の共有、プロダクトの作成はたいへん有意義なもので、意外なほど刺激的であった。ディスカッション中に提示した自分の意見について気兼ねのない批判や指摘、共感を得られ、自分の中でのイメージがより鮮明になった。

また、4年制から6年制に変わった意義を学生は理解していない、という意見は目が醒めるものだった。これは学生の側から反省として出された意見であるが、何気なく感じていたことを言葉として明示され、衝撃的だった。6年制に学ぶ学生として何を学んできたのか、何を学ぶべきなのか、後輩に何を伝えるのかを考えるきっかけとなった。



写真1：実務実習を通して印象に残っていることの図式化  
この資料を用いて発表を行った



写真2：ディスカッションを行った学生9名と教員

他大学の学生との議論を通して、薬剤師の業務、薬剤師そのもの、ひいては医療に関する疑問や意見は実習の中で明確になると考える。一方で、これらの考えや意見を他者に伝える機会は少なく、議論する機会ももっと少ない。学生同士でも、実習施設が同じ学生や友人らと会食し話し合う機会を設けてはいるものの、なんらかのプロダクトの完成を目的とすることはなく、意見の集約は行えないことが多い。

同じ地域の実習施設に通う学生や担当教員、指導薬剤

師らが、今回のフォーラムのように集まり率直な意見を  
交わすことは、学生にとって、実習や学習のモチベーショ  
ンの向上だけでなく、実習を通して自分や薬剤師、医療  
の将来を考える絶好の機会であると思われた。

創業1726年。  
長い歴史を経て、  
私たち中北薬品は、  
地域密着をモットーに  
「安心」をお届けします。

皆様とのふれあいを大切に。

**中北薬品株式会社**  
<http://www.nakabeika.co.jp>

本社事務所/T460-8515 名古屋市千区丸の内3丁目5番15号 2階ビル TEL(052)971-3881(代)  
支 店：伊勢・津・水原・岡崎市・大府・岐阜・高山・土岐・長野・一宮・天保第一・天保第二・松本・長野・天白  
津田・四郷・豊橋・羽村・熱川・美津・新野・富士・三島・下田・引田・厚木・南野田・高岡・富山  
出張所：熊本・大分・出雲等 工 場：製薬工場等